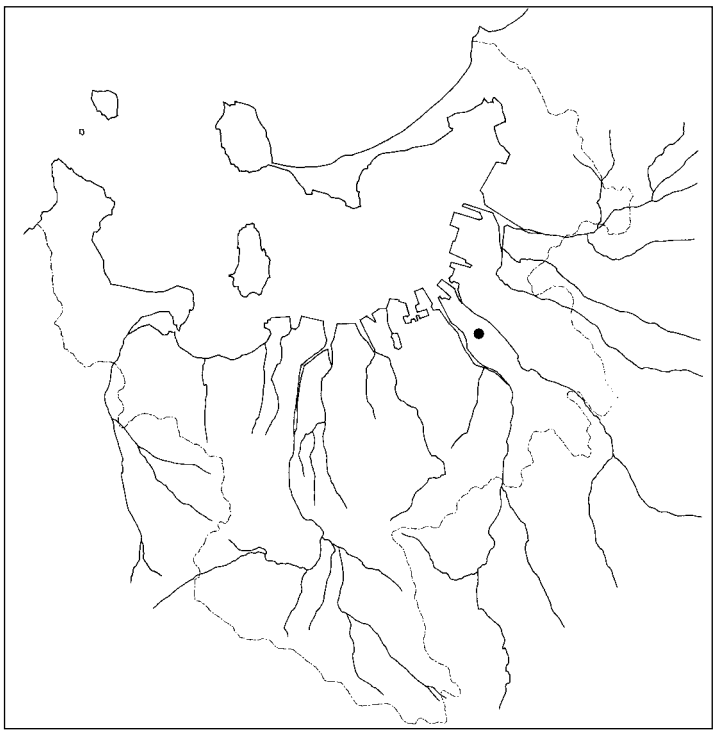
那 珂 35

— 那珂遺跡群第85次調査報告 —

福岡市埋蔵文化財調査報告書第801集



遺跡略号　NAK-85
遺跡調査番号　0230

2 0 0 4

福 岡 市 教 育 委 員 会

序

現在、アジアにより一層開かれた活力のある国際都市を目指し、まちづくりを進めている福岡市は、古くからアジア大陸との交流を通じて発展してきました。本市では、この交流を物語る文化財の保護、活用に努めていますが、開発によりやむを得ず失われていく遺跡については、記録保存のための発掘調査を行っています。

本書は、博多区竹下3丁目に所在するアサヒビール株式会社博多工場地内の防音壁工事に先立って行われた那珂遺跡群第85次調査を報告するものです。調査の結果、弥生時代〜中世に至る遺構、遺物が発見され、当時の生活を復元する上で多大な成果を挙げることができました。

最後になりましたが、発掘調査から整理、報告に至るまで、アサヒビール株式会社博多工場の関係者の皆様には多大なご理解とご協力をいただきました。ここに感謝の意を表するとともに、本書を文化財保護や普及、教育などに活用していただければ幸甚に存じます。

平成16年3月31日

福岡市教育委員会
教育長　生　田　征　生

例　　言

1. 本書は福岡市博多区竹下3丁目39番地他59筆（アサヒビール株式会社博多工場）地内における防音壁設置工事に先立ち、福岡市教育委員会埋蔵文化財課が平成14年8月27日から9月18日にかけて発掘調査を実施した那珂遺跡群第85次調査の報告である。
2. 検出した遺構については、井戸はSE、土坑はSKとし、一括して通し番号を付した。
3. 本書に掲載した遺構の実測、写真撮影、製図は担当の井上繭子が行った。
4. 本書に掲載した遺物の実測は谷が、製図、写真撮影は山口とし子、井上が行った。
5. 本書の執筆、編集は井上が行った。
6. 本調査の出土遺物、記録類は福岡市埋蔵文化財センターで収蔵、管理されるので活用されたい。

遺跡調査番号	0230		遺跡略号	NAK-85	
調査地地番	福岡市博多区竹下3丁目39番地他59筆地内				
開発面積		対象面積		調査面積	161㎡
調査期間	2002年8月27日～9月18日			分布地図番号	東光寺37

目　　次

― 本文目次 ―

Ⅰ．はじめに
1．調査に至る経過 …… 1
2．調査体制 …… 1
Ⅱ．遺跡の立地と環境 …… 2
Ⅲ．調査の記録
1．調査経過 …… 4
2．遺構と遺物 …… 4
①井戸 …… 4
②土坑 …… 9
③その他の出土遺物
3．小結 …… 11

― 挿図目次 ―

第1図　周辺の調査地点（1/3,000）…… 2
第2図　調査地点の位置（1/200）…… 3
第3図　遺構平面図（1/100）…… 折り込み
第4図　遺構実測図（1/60）…… 5
第5図　SE08出土遺物実測図1（1/4）…… 6
第6図　SE08出土遺物実測図2（1/4）…… 7
第7図　その他出土遺物実測図（1/4）…… 8
第8図　包含層出土遺物実測図（1/4）…… 9
第9図　出土瓦拓影・実測図1（1/6）…… 10
第10図 出土瓦拓影・実測図2（1/6）…… 11

― 図版目次 ―

図版1　1．9ブロック全景（北西から）　2．10ブロック全景（北西から）　3．11ブロック全景（北西から）
4．12ブロック全景（北西から）　5．13ブロック全景（北西から）　6．SK16（北東から）
図版2　1．SE08（北東から）　2．SE09（北東から）　3．SE10（北東から）
図版3　出土遺物

Ⅰ．はじめに

1．調査に至る経過

2002年3月19日にアサヒビール株式会社博多工場工場長貞苅陽二郎氏より、防音壁の設置工事に先立ち、福岡市博多区竹下3丁目39番地他59筆（アサヒビール株式会社博多工場）地内における埋蔵文化財の有無について事前審査申請が提出された。申請地は那珂遺跡群内に位置していることから、事業計画に基づき埋蔵文化財課で申請地内における試掘調査を行った。その結果、浅いところではコンクリート下約20㎝で鳥栖ローム面となり遺構が確認された。この成果をもとに協議を行い、工事が行われる範囲内においてはやむを得ず発掘調査を行い、記録保存を図ることとした。また、アサヒビール株式会社博多工場との間に発掘調査及び資料整理に関する受託契約を締結した。発掘調査は2002年8月27日～2002年9月18日の間に行った。

2．調査体制

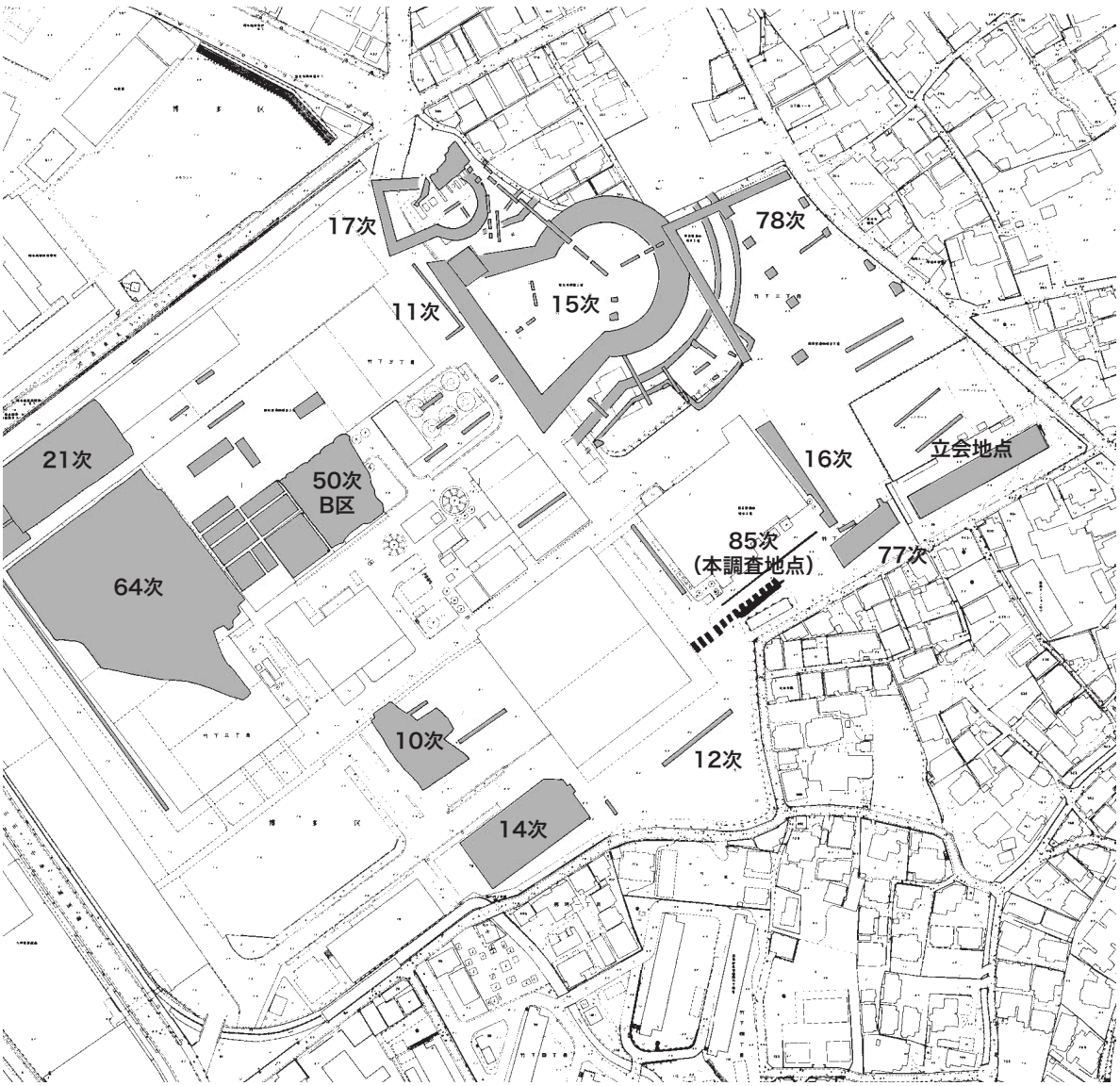
調査委託　アサヒビール株式会社博多工場　工場長 貞苅陽二郎
調査主体　福岡市教育委員会　教育長　生田征生
調査総括　埋蔵文化財課長　山崎純男
調査第２係長　田中壽夫
調査庶務　文化財整備課　御手洗清
事前審査　田上勇一郎　久住猛雄
調査担当　試掘調査　田上勇一郎　久住猛雄
発掘調査　井上繭子
調査作業　石川洋子　泉本タミ子　伊藤美伸　乾俊夫　桑原美津子　志堂寺堂　柴田博
田中トミ子　鍋山治子　濱地静子　林厚子　播磨千恵子　平井武夫　北条こず江
水野由美子　森本良樹
整理補助　谷直子（九州大学大学院）
整理作業　川田京子　佐々木涼子　馬場弓子　福島由衣子　山口とし子

このほか、発掘調査に至るまでの条件整備、調査中の調整等についてアサヒビール株式会社博多工場の皆様には多大なご理解とご協力をいただきました。ここに深く感謝いたします。

Ⅱ．遺跡の立地と環境

福岡平野は、東から南にかけて背振、三郡山塊に囲まれ、北は博多湾に面し、南北に延びる丘陵と沖積平野を交互に連ねて形成される。その沖積平野を、西から室見川、樋井川、那珂川、御笠川、宇美（多々良）川が貫流し、それぞれの河川により開析された丘陵や段丘によって画された小平野が形成される。ここでいう狭義の福岡平野とは、御笠川、那珂川流域の旧席田郡の一部、那珂郡、御笠郡に当たる部分で、この福岡平野を中心として周辺に重要な遺跡群が点在する。

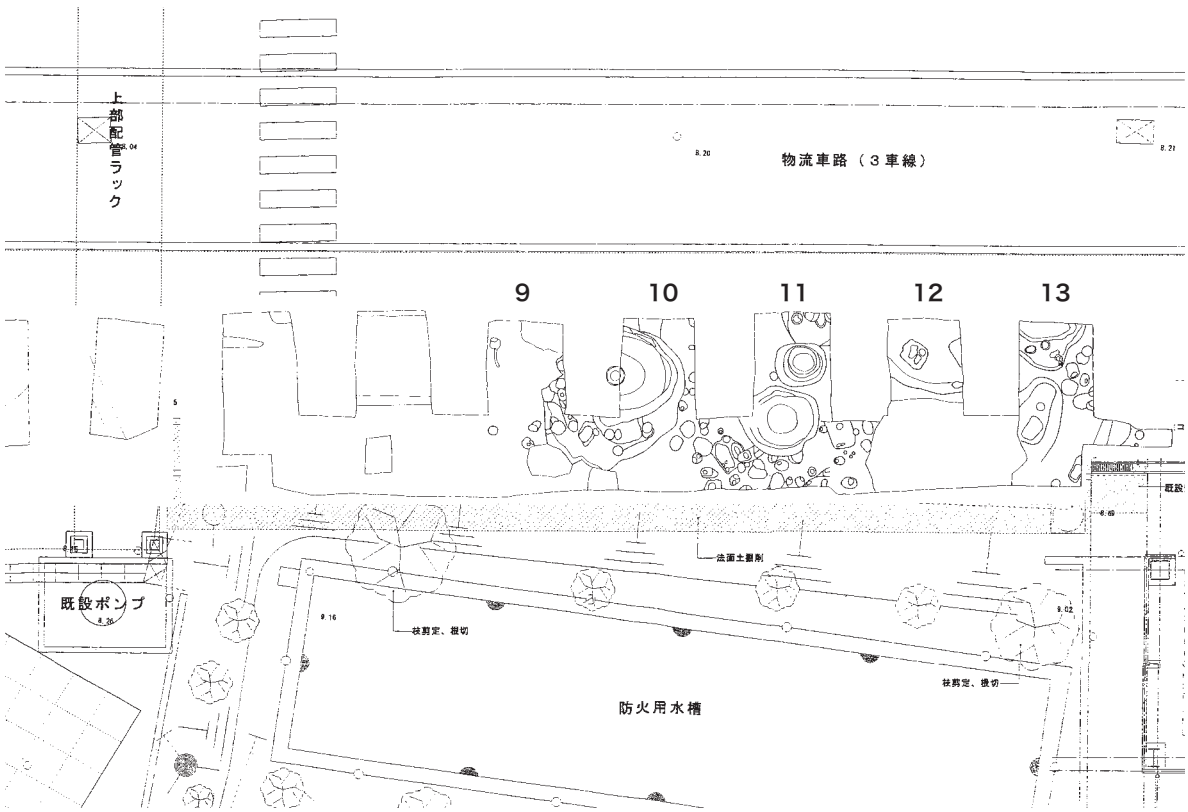
那珂遺跡群は福岡平野の中央部、那珂川と御笠川に挟まれた洪積丘陵上に位置する。この丘陵は花崗岩風化礫層を基盤とし、Aso4起源の噴出物である八女粘土、鳥栖ローム層などを最上部とするものであり、春日市須玖岡本遺跡丘陵の先端付近から、福岡市博多区博多駅南付近の比恵遺跡まで島状に分布している。台地の東西と南側は沖積地であり、2㎞先の博多遺跡群が立地する砂丘との間は後背湿地となっている。遺跡の範囲は南北約2.0㎞、東西0.7㎞で、現在の標高は約7～10mである。アサヒビール株式会社博多工場は、那珂遺跡群の北西端に位置している。



第1図　周辺の調査地点（1／3,000）

那珂遺跡群は現在までに94次の調査が行われているが、アサヒビール株式会社博多工場内においては、そのうち11次の調査が行われた。本調査地点はアサヒビール株式会社博多工場の南東側端に位置し、北東側には第77次調査地点、その北西側には第16次調査地点、南西側には第12次調査地点が位置している。第77次調査地点では、弥生時代終末期の溝、弥生時代前期～中期の時期と思われる貯蔵穴が検出されている。第16次調査地点では、弥生時代終末～古墳時代初頭の溝、古墳時代～古代にかけての土壙墓や溝、弥生時代中期～後期にかけての甕棺墓、土壙墓などが検出されている。なおここで検出された弥生時代終末～古墳時代初頭の溝は第77次調査地点で検出された溝と一連のものと思われる。第12次調査地点は試掘調査であるが、古墳時代初頭の井戸が1基検出されている。

工場内の地形については、「那珂31」福岡市埋蔵文化財調査報告書第267集に詳細に述べられているが、ここで簡単に触れておきたい。第64、10、14次調査地点の西側で丘陵の落ちが確認されている。工場敷地内の高まりは第12次調査地点の南側が最も高く、東西に傾斜している。第12次調査地点は丘陵の最高部に近いが、遺構検出面は標高約7.5mで2.5m以上の削平が行われていると考えられる。第77次調査地点も大幅な削平が行われていたと考えられ、両調査地点の中間に位置する本調査地点も丘陵のトップより東側で、同じような削平が行われていると推定される。



第2図　調査地点の位置（1／200）

Ⅲ．調査の記録

1．調査経過

調査は2002年8月27日に着手した。調査地点は、トラックが通行する道路内であったため、発掘調査は充分注意して行った。また、基礎部分のみを調査対象としたため、調査区は変形的で、その部分のみアスファルトを切断・除去しながらの作業を行い、廃土置き場の関係から、反転しての調査となった。

調査区の南西側半分（1～8ブロック）では、鳥栖ローム面は現地表下約50㎝で検出されたが、遺構は全く検出されず、大幅な削平を受けていると推定された。南西側半分の調査を終わらせた後、北東側半分（9～13ブロック）のアスファルトを切断・除去し、盛土を除去したところ、遺物を含む茶褐色土の包含層が堆積しており、この下面で遺構が検出された。調査区が鋸歯状の形を呈していたため、各々番号を振って1ブロックごとに遺構検出・掘削・図面作成・写真撮影を行った。調査期間終盤において雨が降り、調査区が冠水するなどの被害を受けたが、9月18日には撤収、調査を終了した。

2．遺構と遺物

検出された遺構と遺物の説明を行う。

①井戸

SE08（第4図・図版2-1）

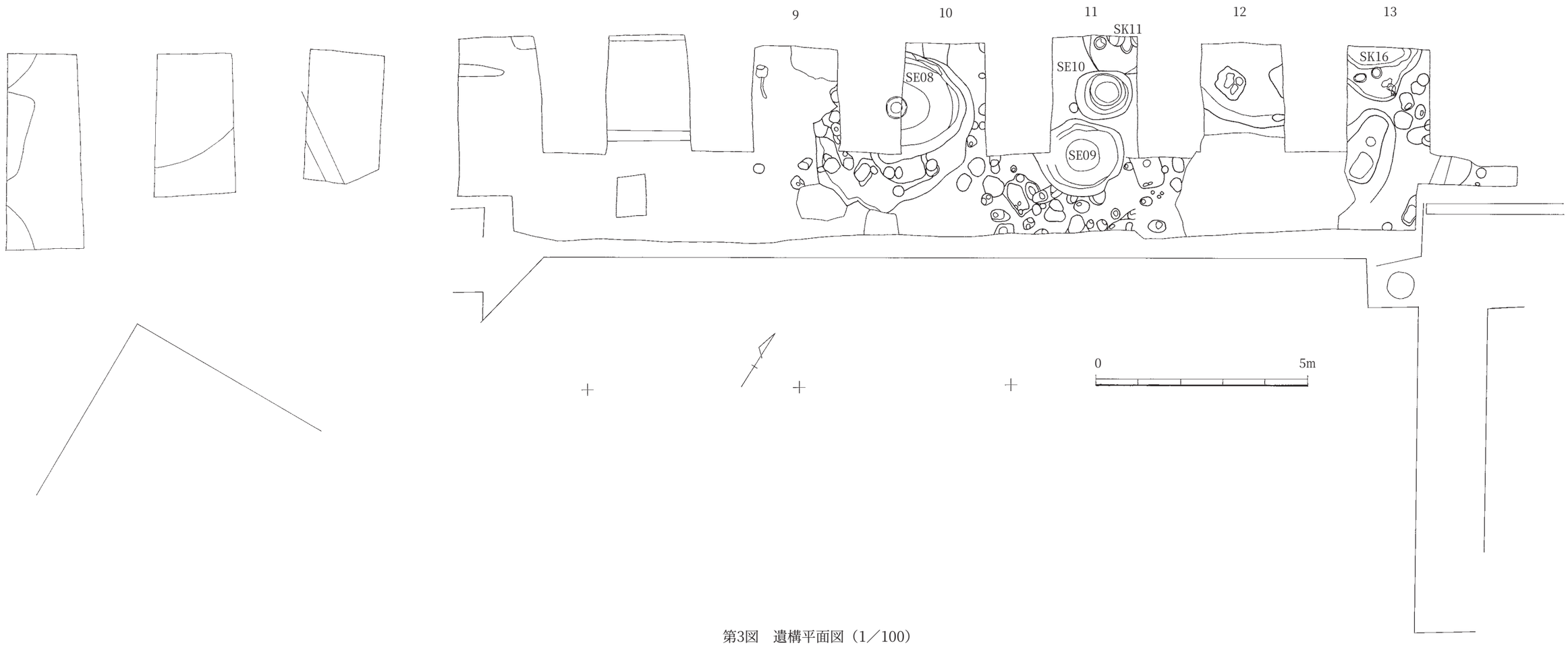
9、10ブロックに位置する。平面はほぼ円形を呈し、径約1.8m、深さ約1.3mを測る。井戸底面に須恵器大甕の口縁部が据えられていた。7世紀後半～8世紀頃までの須恵器、土師器等が出土している。

出土遺物（第5・6図）

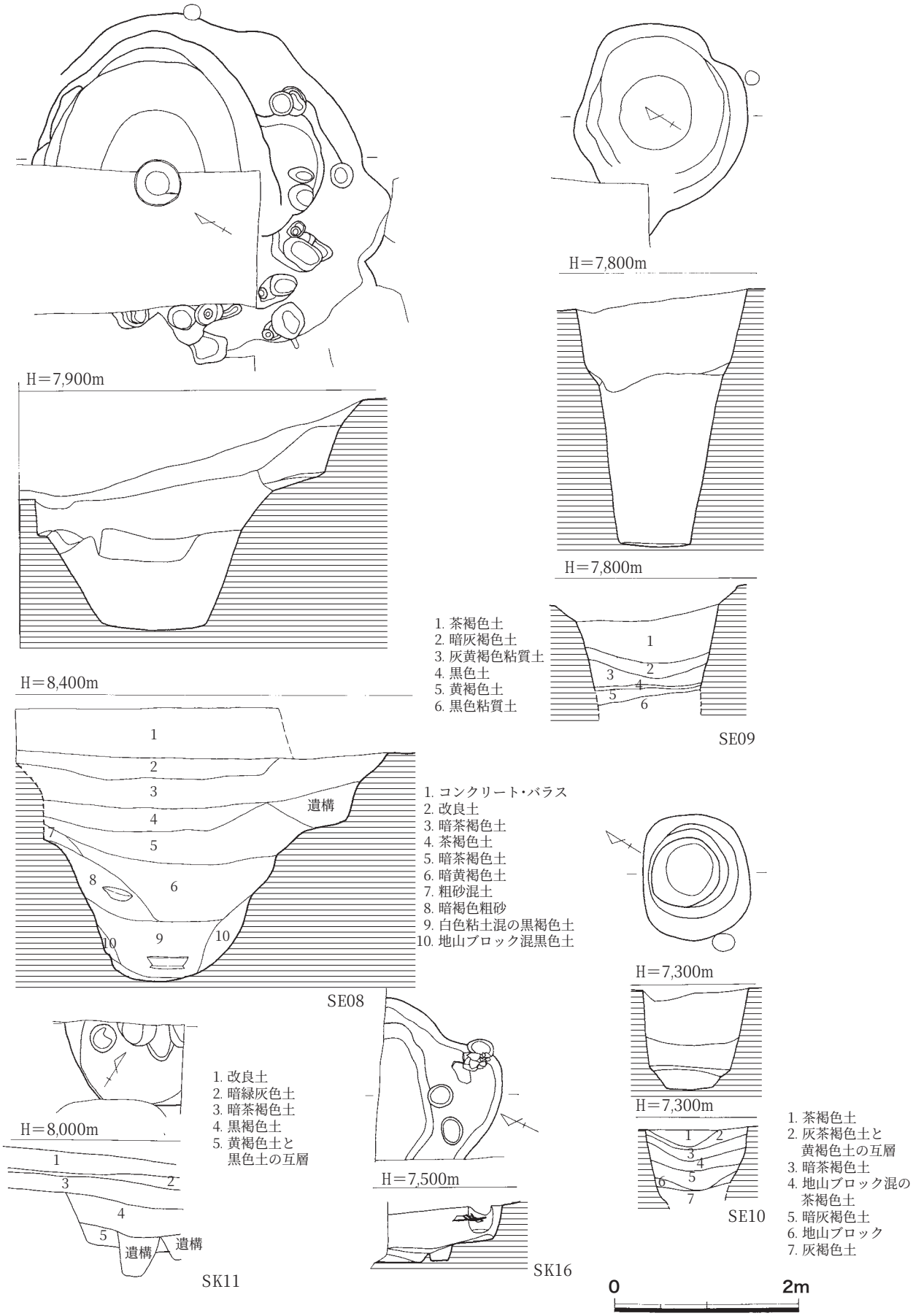
1、2は須恵器大甕の口縁部である。1は口径54㎝を測り、灰褐色を呈する。井戸底部に据え置かれていた。2は口径47.0㎝、にぶい橙褐色を呈する。井戸底部付近からの出土である。3～5は須恵器の蓋である。3はかえりのつくタイプで、口径15.6㎝、灰褐色を呈する。8世紀頃であろう。4は口径9.0㎝、灰褐色を呈する。7世紀前半頃か。5はかえりのつかないタイプで、口径は推定14㎝を測る。灰褐色を呈する。6～8は須恵器の杯である。6、7は底部に高台はつかない。6は口径14.6㎝、器高4.2㎝、底径12.0㎝を測る。6、8は井戸の底部付近から出土している。9は須恵器高坏の脚部である。10、11は須恵器の長頸壷である。いずれも井戸の上層近くから出土している。

12～16、20は土師器の甕である。12は口径26.6㎝、残高24.0㎝、13～16は各々口径27.0㎝、26.0㎝、39.1㎝、23.0㎝を測る。12、14、15、20は口縁部はく字状に屈曲する。13は胴部から口縁部にかけて緩やかに外反する。13～16、20は外面にハケメが施され、13、14は内面にケズリで調整がなされる。13～15、20は井戸の底部付近の出土である。17～19は土師器の小型甕である。17は口径18.0㎝、器高14.0㎝を測り、底部は平底でどっしりとした器形である。18、19は各々口径12.3㎝、13.4㎝を測り、19の内面にはケズリ調整がみられる。18は井戸底部付近の出土。21は土師器高坏の脚部である。22、23は弥生土器器台である。

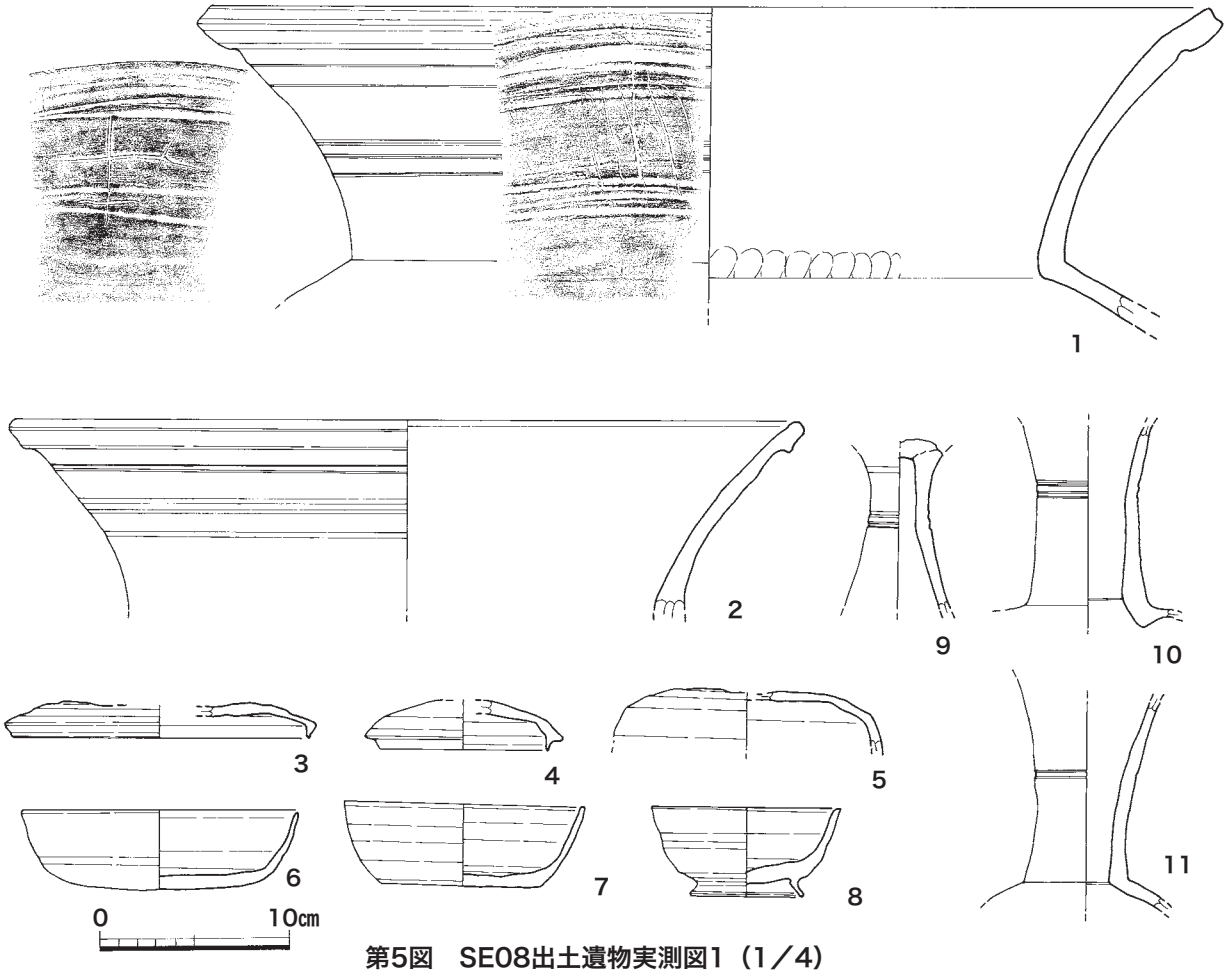
24は土師器の甑である。底部がない形態のもので、底径16.4㎝、残高18.0㎝を測る。外面にハ



第3図　遺構平面図（1／100）



第4図　遺構実測図（1／60）



第5図　SE08出土遺物実測図1（1／4）

ケメ、内面にケズリが施される。井戸底部付近の出土である。25～28は甑の把手である。29～31は土師器の坏である。29はやや丸みを帯びる器形であるが、底部に高台の痕跡が残る。30は断面台形の高台が底部やや内側につく。口径18.4㎝、器高5.6㎝、高台径11.2㎝を測る。31は高台はつかない器形で、口径13.6㎝、器高2.4㎝、底径8.4㎝を測る。いずれも内面にハケメが施される。

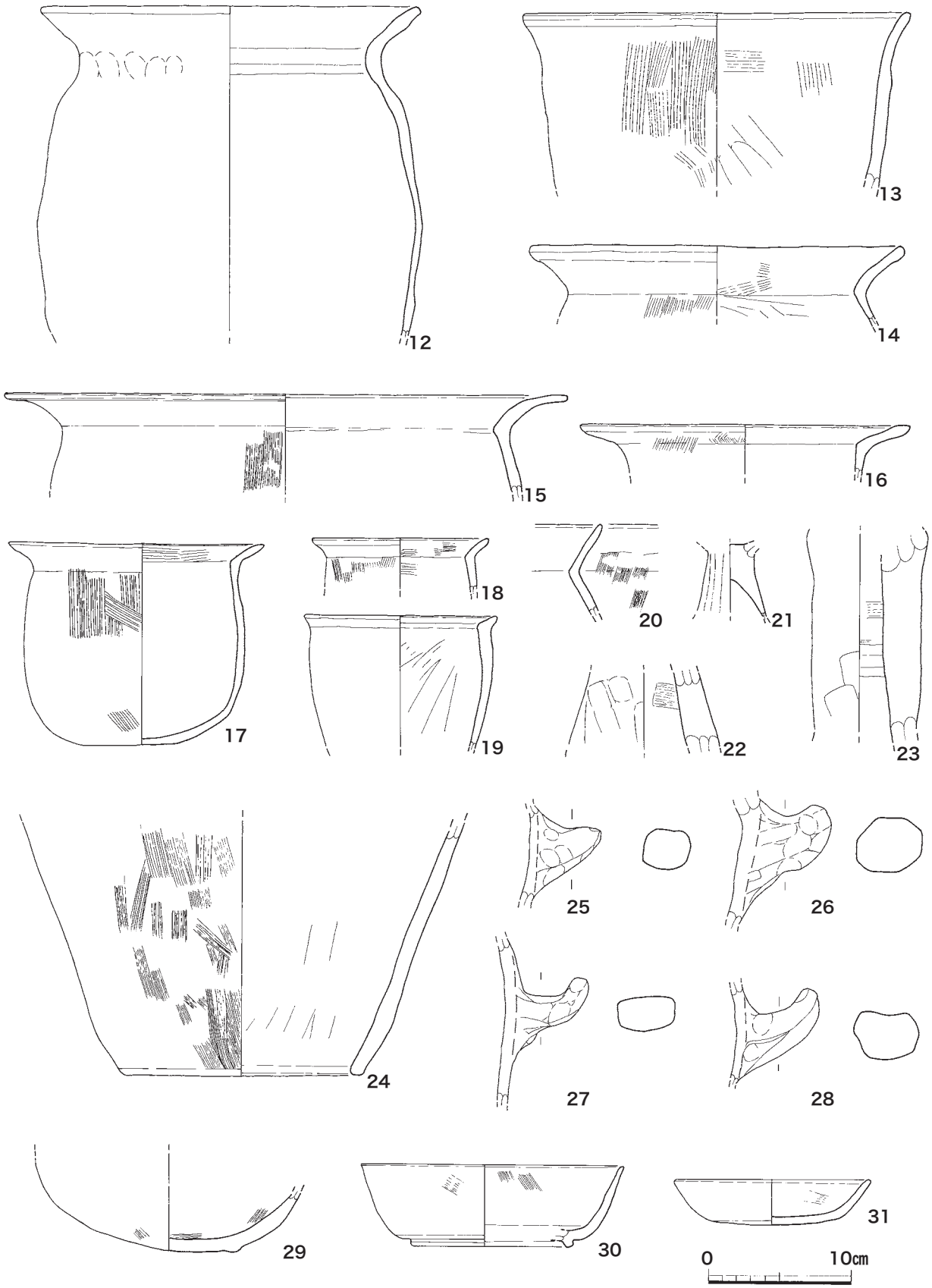
以上の出土遺物から、弥生土器などの混入はみられるものの、井戸底部に据えられた須恵器の大甕から、井戸の掘削時期は7世紀後半頃と思われるが、埋土中の出土遺物は8世紀前半頃まで下るものが含まれ、7世紀後半～8世紀前半頃まで使用時期が継続していたと推定される。

SE09（第4図・図版2-2）

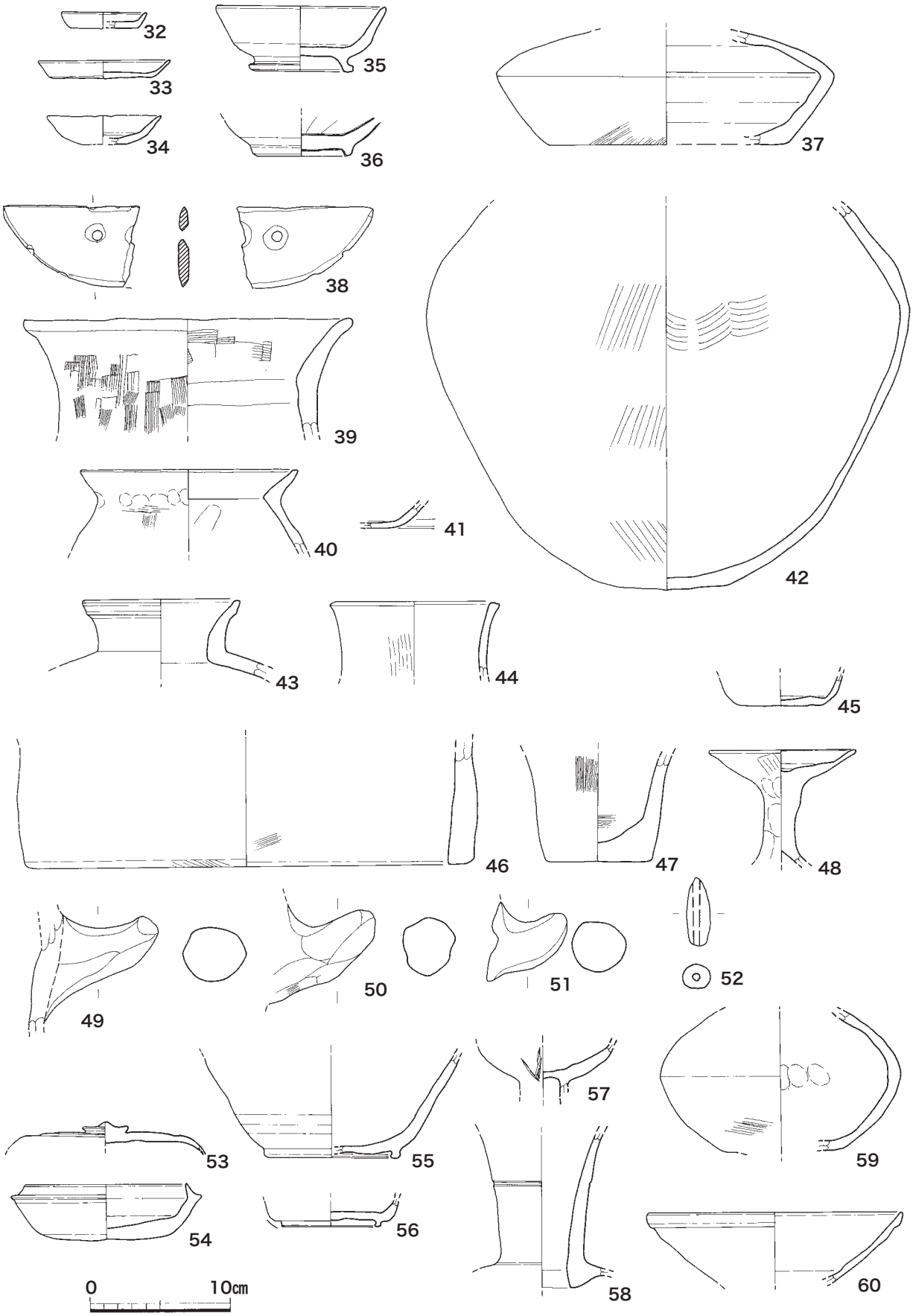
11ブロック南寄りに位置する。平面は円形を呈し、径1.25～1.3m、深さ1.9mを測る。井戸の上層部は、黄褐色土、灰褐色土などが縞状に堆積するが、井戸の下層部は黒色粘質土層となる。出土遺物はあまり多くない。

出土遺物（第7図32～36）

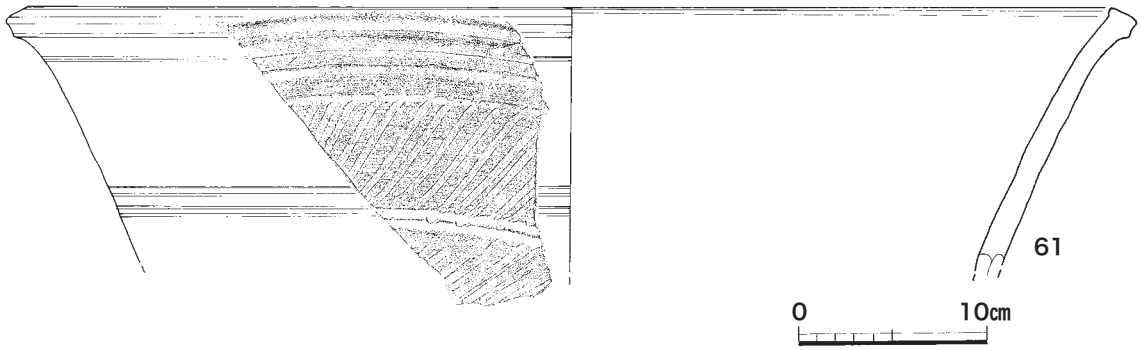
32、33は土師器の皿である。各々口径6.0㎝、9.4㎝、器高1.0㎝、1.2㎝、底径5.0㎝、7.0㎝を測る。いずれも糸切りはなし底部である。34は白磁の皿である。口縁部が一部波状を呈し、口径8.0㎝、器高2.0㎝、底径2.4㎝を測る。精緻な胎土に透明釉がかかるが、底部は露胎となる。35は須恵器の坏である。断面がL字状の高台がつく。口径12.0㎝、器高4.6㎝、底径7.4㎝を測る。36は青磁碗の底部である。緻密な胎土に灰緑色の釉が全面にかかる。見込みには胎土目跡がわずかに残



第6図　SE08出土遺物実測図2（1／4）



第7図　その他出土遺物実測図（1／4）



第8図　包含層出土遺物実測図（1／4）

り、越州窯系の青磁と思われる。

以上の出土遺物をみると、7世紀末〜8世紀初頭から中世までの時期が混在しているが、いずれも上層付近の出土である。井戸が完全に埋まった時期は、中世まで下ると思われる。

SE10（第4図・図版2-3）

11ブロックで、SE09の北に位置する。平面はほぼ円形を呈し、径0.8〜0.9m、深さ0.7mを測る。出土遺物は少ない。

出土遺物（第7図37）

37は須恵器の横瓶である。底径17.0㎝を測る。38は石包丁である。凝灰岩製か。孔と孔の間は2.4㎝を測る。

②土坑

SK11（第4図）

11ブロック北端に位置し、SE10に切られる。

出土遺物（第7図39〜41）

39、40は土師器の甕である。各々口径23.2㎝、15.4㎝を測る。39は外面に縦方向のハケメ、内面に横方向のハケメとケズリが施される。41は須恵器の坏である。

SK16（第4図・図版1-6）

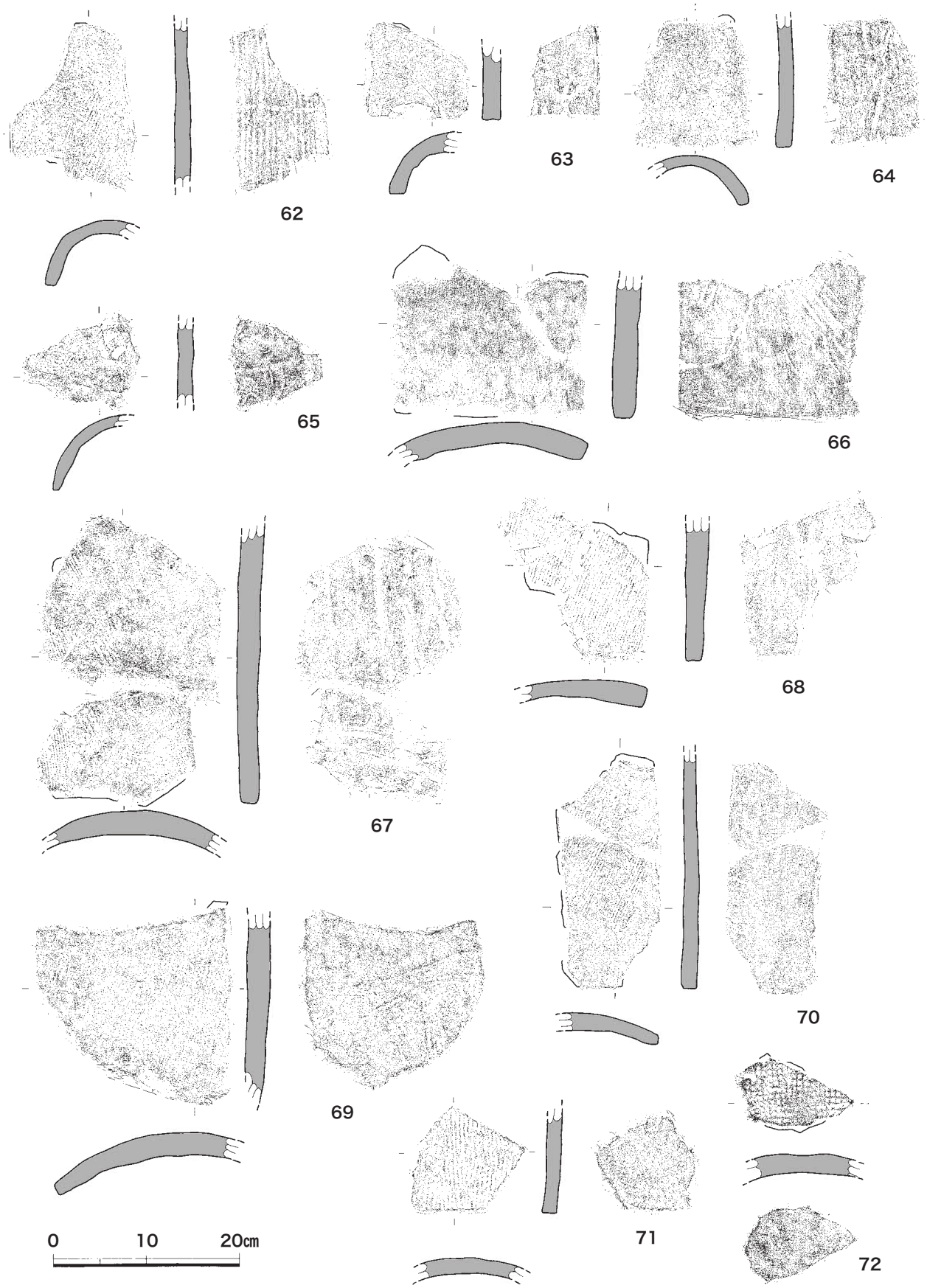
13ブロック北端に位置する。

出土遺物（第7図42）

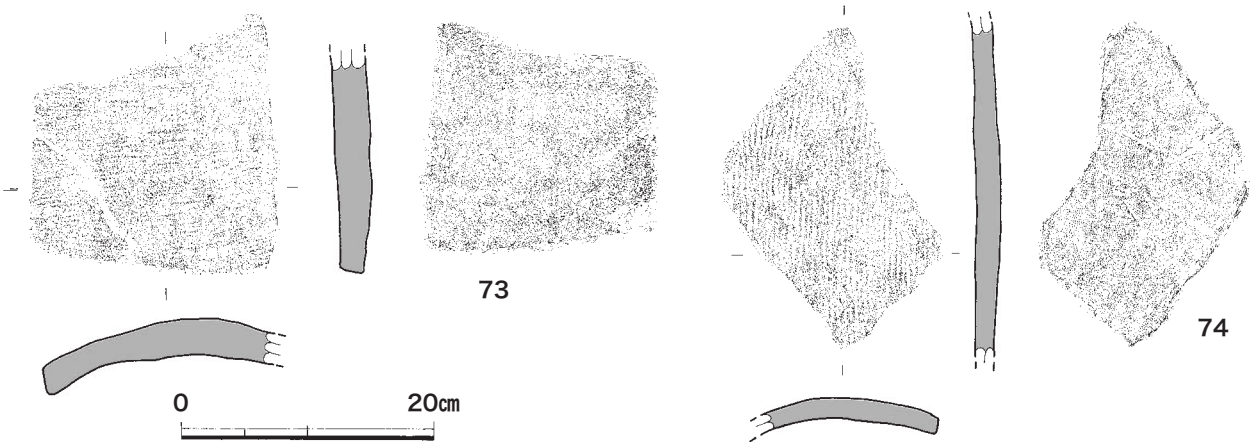
42は須恵器甕の胴部である。外面には平行タタキ、内面には波状タタキが見られる。胴部最大径は34.0㎝を測る。

③その他の出土遺物（第7図43〜60・第8〜10図）

43はSK12出土の須恵器壷である。口径10.2㎝を測る。外面には平行タタキ、内面には同心円状のタタキが施される。44はSK18の出土。土師器であるが器形は不明である。外面にハケメで調整がなされる。口径12.0㎝を測る。外面にタテハケが施される。45〜61は遺構面上層包含層出土の遺物である。45は土師器の坏で、底径6.0㎝を測る。46は甑である。底部のない形態で、底径32.2㎝を測る。47は弥生土器の底部か。平底を呈し、底径7.4㎝を測る。内外面にハケメが施される。48は土師器の高坏であろうか。口径10.6㎝を測る。49〜51は甑の把手である。52は土錘である。



第9図　出土瓦拓影・実測図1（1／6）



長さ4.8cmを測る。53～59は須恵器である。53は蓋である。つまみとかえりがつくタイプ。54は坏である。口径11.4cm、器高4.0cm、底径9.0cmを測る。55、56は高台がつく。56は底部の外側に高台が巡り、57は底部のやや内側に断面が方形の高台がつく。底径は各々9.6cm、7.0cmを測る。57は高坏である。坏部は椀状を呈し、外面にV字状のヘラ記号が付く。58、59は長頸壷である。58は頸部、59は胴部である。60は玉縁口縁の白磁碗である。口径は18.4cmを測る。外面の下半部は露胎となる。61は須恵器大甕の口縁部である。外面にはヘラ書きによる斜行凹線文が巡らされる。

62～74はSE08や包含層から出土した瓦である。62～65は丸瓦である。62、63はSE08出土、64、65は包含層出土である。62、65は凸面に平行タタキが見られ、いずれの瓦の凹面にも布目が見られる。66～74は平瓦である。72は包含層出土、その他はSE08出土である。66は凸面に縄目、凹面に布目が見られる。72は凸面に格子目タタキ、凹面に布目が見られる。その他は凸面に平行タタキ、凹面に布目が見られる。

3. 小結

調査区の南西側半分（1～8ブロック）では遺構は全く検出されず、北東側半分（9～13ブロック）で遺構が検出された。遺構が検出された部分では、遺構の上面に古墳時代～古代の遺物を含む茶褐色土の包含層が堆積しており、遺構面は南東から北西へ向かい傾斜して落ちている。

本調査地点では、井戸3基、土坑、ピットが検出された。このうちSE08は7世紀後半～8世紀前半、SE09は7世紀末～中世後半までの遺物が出土したことから、SE08は7世紀後半に掘削され8世紀前半まで継続していたこと、SE09は7世紀末頃掘削され中世後半頃埋没したことがわかる。土坑はいずれも出土遺物から古墳時代末～古代にかけての時期と思われる。

調査区の南西側に位置する第14次調査地点では、弥生時代の貯蔵穴、古墳時代後期の竪穴住居址、古代の井戸、掘立柱建物が検出されている。このうち井戸からは越州窯系青磁や円面硯が出土している。本調査地点のSE09からは越州窯系青磁が、また、SE08からは瓦が出土していることから、第14次調査地点から本調査地点を含めた一帯に特殊な施設が存在した可能性が考えられる。

また先に述べたように、第12次調査地点を最高部とする丘陵の存在が推定されるが、これは、第14次調査地点で、削平を受けているものの本来は北東側へ向かいローム面が上がっていたこと、逆に本調査地点では南西側に遺構が検出されないことから、本来は南西側へ向かいロームが上がっていたことからも裏付けられよう。このことから、第14次調査地点と本調査地点の間には丘陵状の高まりがあったと推定される。

図版1

1.　9 ブロック全景（北西から）

2.　10ブロック全景（北西から）

3.　11ブロック全景（北西から）

4.　12ブロック全景（北西から）

5.　13ブロック全景（北西から）

6.　SK16（北西から）

1. SE08（北東から）

2. SE09（北東から）

3. SE10（北東から）

図版3

1

7

35

8

36

17

42

報告書抄録

書名	那珂35
副書名	那珂遺跡群第85次調査報告
シリーズ名	福岡市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	801
編著者名	井上繭子
編集機関	福岡市教育委員会
発行機関	福岡市教育委員会
発行年月日	20040331
郵便番号	810－8621
電話番号	092－711－4667
住所	福岡市中央区天神1－8－1
遺跡名ふりがな	なかいせきぐん
遺跡名	那珂遺跡群第85次
所在地ふりがな	ふくおかしはかたくたけした3ちょうめ39ばんちほか59ひつちない
遺跡所在地	福岡市博多区竹下3丁目39番地他59筆地内
市町村コード	40132
遺跡番号	020085
北緯	33°34’09”
東経	130°26’09”
調査期間	20020827－20020918
調査面積	161
調査原因	防音壁設置工事
種別	集落
主な時代	古墳時代
遺跡概要	古墳時代後期の井戸、土坑
特記事項	
備考	

福岡市埋蔵文化財調査報告書第801集

那 珂 35

— 那珂遺跡群第85次調査報告 —

2004年（平成16年）3月31日

発　行　福岡市教育委員会
福岡市中央区天神１丁目８－１

印　刷　三栄印刷株式会社
福岡市博多区千代１丁目６－１